

都道府県・指定都市番号	41	都道府県・指定都市名	佐賀県	研究課題番号・校種名	2 中学校
				教科名	技術・家庭科（家庭分野）
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ①各内容における基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活の課題を解決する力や生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するための指導計画及び指導方法等の研究 ②「生活の課題と実践」に関する指導方法及び評価の研究				
学校名（生徒数）	佐賀大学教育学部附属中学校（458人）				
所在地（電話番号）	佐賀県佐賀市城内1丁目14番4号（0952-26-1001）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http:// www.fuchu.pd.saga-u.ac.jp				
研究のキーワード	小・中の系統性を踏まえた衣生活の指導計画 題材を貫く「問い」 パフォーマンス課題 衣服の材料に応じた日常着の手入れ 衣生活の課題と実践				
研究結果のポイント	○衣生活で育む資質・能力を明確にし、小・中学校5学年間を見通した指導計画を作成したことによって、小学校の指導内容の理解が深まり、中学校の指導に生かすことができた。 ○題材の最初に題材を貫く「問い」を生徒と共に設定し、学習した知識及び技能を活用して課題を解決する「学びの過程」を重視した指導を行ったことは、生活を工夫し創造する能力の育成につながった。 ○「学びの過程」にパフォーマンス課題を位置付け、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら解決策を再考することによって、学びが深まった。 ○思考の変容や深まりを把握する評価方法を工夫したことは、生活を工夫し創造する能力の育成につながった。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「知識・技能を活用し、生活を工夫し創造する能力を育む家庭分野の指導と評価に関する研究」

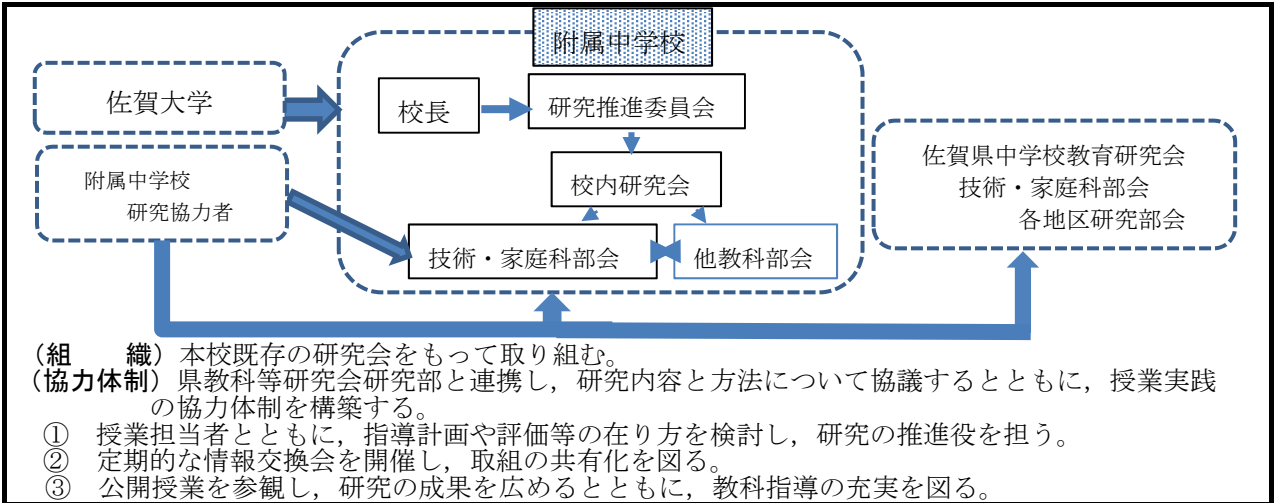
(2) 研究主題設定の理由

生活を工夫し創造する能力を育むためには、生徒が自分の生活を見つめ、課題を見だし、学んだ知識及び技能を活用して、課題を解決する「学びの過程」を重視した指導が必要である。

しかし、生徒の実態調査から生活体験が少ないため、自分の生活における課題がもてなかったり、学校で学んだ知識や技能を家庭生活で十分活用できていなかったりしている。

そこで、本研究では新学習指導要領の方向を踏まえ、3学年間で育む資質・能力を明確にしつつ、小学校からの5学年間を見通した指導計画を工夫する。その際、小・中学校の系統性や他教科等との関連についても検討する。また、「学びの過程」を重視して知識及び技能を習得し、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせて思考力・判断力・表現力等を育成する指導方法や評価の在り方について実践的研究を行い、生活を工夫し創造する能力を育みたいと考えた。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成29年度	<p>4月～6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中学校1年生を対象に、小学校での学習の実態を把握するためのアンケートを実施し、その分析を基にした中学校3学年間を見通した指導計画の作成 ② 各題材で育む資質・能力の明確化と「生活の課題と実践」の効果的な位置付けの検討 ③ 題材を貫く「問い」を設定する場、「一枚ポートフォリオ」を取り入れた授業実践 <p>7月～8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 内容「C衣生活・住生活の自立」における小・中学校の系統性を踏まえた指導内容の検討 ② 内容「C衣生活・住生活の自立」題材「快適に着よう 私の衣服」における知識及び技能を活用するパフォーマンス課題及びパフォーマンス評価の検討 <p>9月～12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「学びの過程」を踏まえた内容「C衣生活・住生活の自立」題材「快適に着よう 私の衣服」の授業実践 ② 佐賀県中学校教育研究会技術・家庭科部会員への授業公開 ③ 研究の成果と課題を捉えるための事後アンケートの実施・分析 ④ アンケート調査を基にした次年度の指導計画の作成 ⑤ 研究成果と課題の整理、研究報告書の作成及び研究発表の準備 ⑥ 小学校と連携した授業実践 <p>2月 研究協議会での研究成果と課題の公表 3月 佐賀県中学校教育研究会技術・家庭科部会での研究成果の発表</p>
平成30年度	<p>4月～10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小・中学校の系統性を踏まえた衣生活の小・中学校5学年間の指導計画の作成及び中学校3学年間を見通した全体的な指導計画の再構成 ② 衣生活における生活の営みに係る見方・考え方を働かせる学習指導の工夫 ③ 主体的な学びを実現するためのICTを活用した学習指導の検討 ④ 題材「快適に着よう 私の衣服」における知識及び技能を活用する「パフォーマンス課題」及びパフォーマンス評価の検討 ⑤ 「生活の課題と実践」の課題設定の工夫 ⑥ 生活を工夫し創造する能力や主体的に学習する態度を育む評価の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 1) 思考の深まりをみる評価(パフォーマンス評価)の検討 2) 主体的な学びにつなぐ評価(自己評価・相互評価・ポートフォリオ評価)の検討 ⑦ 内容「B衣食住の生活」(7)「衣食住の生活についての課題と実践」題材「豊かな生活を実現しよう」における授業実践及び授業公開(9月 研究指定校訪問) <p>11月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 佐賀県内の学校での実践研究(11月) ② 小・中学校5学年間を見通した衣生活における指導計画の見直し ③ アンケート集計・検証データのまとめ、報告書作成 <p>2月 研究協議会での研究成果と課題の発信 3月 佐賀県中学校教育研究会技術・家庭科部会での研究成果の発表</p>

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 育む資質・能力の明確化と衣生活の小・中学校5学年間の系統性を踏まえた中学校3学年間を見通した全体的な指導計画の工夫
 - 1) 衣生活の小・中学校5学年間の指導内容の洗い出しと題材配列の工夫
 - 2) 各題材で育む資質・能力の明確化と衣生活の小・中学校5学年間の系統性を踏まえた中学校3学年間を見通した全体的な指導計画の作成
 - 3) 「生活の課題と実践」の効果的な位置付けの検討
- ② 問題解決的な学習における「学びの過程」と指導の工夫
 - 1) 「学びの過程」の工夫
 - 2) 題材を貫く「問い」と学習のゴールを見据えた題材構成
 - 3) ICTを活用した学習活動の工夫
 - 4) 学びを深める場における解決策の再考
 - 5) 家庭や地域での実践につなぐ指導の工夫
- ③ 生活を工夫し創造する能力を育む評価の工夫
 - 1) 思考の深まりをみる評価の検討(パフォーマンス評価)
 - 2) 主体的な学びにつなぐ評価の検討(ポートフォリオ評価・自己評価・相互評価)

(2) 具体的な研究活動

- ① 育む資質・能力の明確化と衣生活の小・中学校5学年間の系統性を踏まえた中学校3学年間を見通した全体的な指導計画の工夫
 - 1) 衣生活の小・中学校5学年間の指導内容の洗い出しと題材配列の工夫
 - ・ 内容「B衣食住の生活」(4)「衣服の選択と手入れ」(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」において、附属小学校と連携し、段階的に指導する内容や繰り返し指導する内容等を洗い出し、題材配列表を作成した。
 - 2) 各題材で育む資質・能力の明確化と衣生活の小・中学校5学年間の系統性を踏まえた中学校3学年間を見通した全体的な指導計画の作成
 - ・ B(4)(5)で育む資質・能力(知識及び技能や思考力・判断力・表現力等)を踏まえ、小・中学校5学年間の指導計画を作成し、これを基に中学校3学年間を見通した全体的な指導計画を作成した。本計画は、学びの過程を明記したことが特徴である。
 - 3) 「生活の課題と実践」の効果的な位置付けの検討
 - ・ 「生活の課題と実践」を3学年間で第1学年の冬休みと第2学年の春休みに位置付けた。今年度は第1学年でB(4)(5)と内容「C消費生活・環境」(2)「消費者の権利と責任」との関連を図り、B(7)「衣食住についての生活の課題と実践」に取り組んだ。その際、健康、快適、持続可能な社会の構築の視点から自分の衣生活を振り返り、問題を見いだして課題を設定できるようにした。
- ② 問題解決的な学習における「学びの過程」と指導の工夫
 - 1) 「学びの過程」の工夫
 - ・ 生活を工夫し創造する能力を育むために、問題解決的な学習の「学びの過程」を6段階とした。第1段階で題材全体を貫く学習テーマとして「問い」の設定を行い、日常着の手入れに関する課題を発見する。第2・3段階では、課題解決に向けた学習活動を通して知識及び技能を身に付ける。第4段階で、それらの知識及び技能を活用した「パフォーマンス課題」に取り組み、その後実践計画を立てて家庭で実践活動を行う。第5段階で、実践活動の評価・改善を行い、第6段階の題材の振り返りで新たな課題を見付ける。
 - 2) 題材を貫く「問い」と学習のゴールを見据えた題材構成
 - ・ 内容「B衣食住の生活」題材「快適に着よう 私の衣服」(総時間数を9時間)では、第1時間目に貫く「問い」を「資源や環境に配慮して、衣服の選択や手入れを快適にするには、どのようにすればよいだろうか」として生徒自身が設定した。「問い」の設定においては、事前に家族にインタビューをして日常着の手入れの問題点を洗い出し、見方・考え方にも気付くようにした。生徒は、資源や環境に配慮し、健康で快適な衣生活を目指して学習に取り組んだ。
 - 3) ICTを活用した学習活動の工夫
 - ・ 生徒が主体的に課題を解決できるよう、「学びの過程」第3段階において衣服実験を取り入れた。タブレット端末を用いて洗剤の働きの実験動画を視聴したり、汚れに応じた洗剤の種類等を調べたりして、日常着の材料に応じた手入れについて説明できるようにした。また、「学

びの過程」第5段階では、電子黒板を活用して衣服の手入れに関する家庭実践を発表した。

4) 学びを深める場における解決策の再考

- ・「パフォーマンス課題」を「学びの過程」の第4段階に設定し、学習した知識及び技能を活用して、主体的に課題を解決する場面とした。題材「快適に着よう 私の衣服」では、クリーニングアドバイザーとして材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方についてアドバイスを行うことを「パフォーマンス課題」として設定した。また、学びを深める場では、ロールプレイングを取り入れ、解決策を再考した。その際、健康、快適、持続可能な社会の構築（資源の有効活用）などの視点から話し合いを進め、自分の考えを深められるようにした。

5) 家庭や地域での実践につなぐ指導の工夫

- ・題材の中に学校での学びを生かした家庭実践を意図的に仕組んでいくことが、知識及び技能を活用できる力を育む上で有効な方法であると考えた。題材「快適に着よう 私の衣服」では、第5段階に家庭実践を入れた計画とし、実践したことを評価・改善した。

③ 生活を工夫し創造する能力を育む評価の工夫

1) 思考の深まりをみる評価の検討(パフォーマンス評価・ペーパーテスト)

- ・パフォーマンス評価

題材「快適に着よう 私の衣服」では、材料や状態に応じた日常着の手入れ(主に洗濯)について、4つの失敗例をパフォーマンス課題として設定した。生徒は失敗例について、何が原因なのか、質問を重ねることで失敗した原因が明確になり、解決策を考えることができた。また、自分たちが考えた解決策が本当に妥当であるのか、実現可能であるのかを再考するために、班での解決策についてアドバイザーと客を演じるロールプレイングに取り組みさせた。その際、教師は、生活を工夫し創造する能力の観点で評価した。生活の営みに係る見方・考え方を生かして解決策を再考させることは、生徒の考えを広げ深めることにつながったと考える。

- ・ペーパーテスト

ペーパーテストは、衣服の整理をしていると着ていない衣服が見つかった等の衣生活の問題を取り上げ、個別の知識を関連付けて解答させる活用問題とした。

2) 主体的な学びにつなぐ評価の検討(ポートフォリオ評価・自己評価・相互評価)

- ・ポートフォリオ評価

題材「快適に着よう 私の衣服」では、毎時間の学習を振り返る時に「一枚ポートフォリオ」を活用した。このポートフォリオによって生徒は、見通しをもって主体的に学ぶとともに、題材のスタート時点と題材の振り返りの時点での自分の成長を感じとることができたと考える。

- ・自己評価と相互評価

毎時間の学びを振り返る場面では、家庭生活にどのように生かすのかといった観点から自己評価し、ポートフォリオに記入した。また、「衣生活の課題と実践」では、計画の検討や実践発表の際、課題の解決方法が適切であるかや根拠を明確にして説明しているか、健康、快適、持続可能な社会の構築の視点から考えているかなどについて相互評価を行った。

このような評価の工夫が、題材全体の見通しと学習の振り返りを容易にし、題材の学びをメタ認知することを促した。また、学校での学びを家庭へとつなぐものとなった。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 衣生活で育む資質・能力を明確にし、小・中学校5学年間を見通した指導計画を作成したことによって、小学校の指導内容の理解が深まり、中学校の指導に生かすことができた。
- 題材の最初に題材を貫く「問い」を生徒と共に設定し、学習した知識及び技能を活用して課題を解決する「学びの過程」を重視した指導を行ったことは、生活を工夫し創造する能力の育成につながった。
- 課題解決や実践発表の場面では、ICTを活用して生徒が主体的に調べたり、家庭実践の成果を発表し、共有したりすることができた。
- 「学びの過程」にパフォーマンス課題を位置付け、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら解決策を再考することによって、学びが深まった。
- 思考の変容や深まりを把握する評価方法を工夫したことは、生活を工夫し創造する能力の育成につながった。
- 知識及び技能を総合的に活用する課題設定や「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせる学習活動の工夫を行い、カリキュラムを更に改善していく。

4 今後の取組

研究の結果を次年度に生かしていくとともに、佐賀県中学校教育研究会技術・家庭科部会で公表し、県内の会員と連携して更に研究を進め、その深化と成果の普及を図る。